

## 水稲 斑点米カメムシ類に注意!!

- 1 病害虫名 斑点米カメムシ類（特にアカスジカスミカメ、アカヒゲホソミドリカスミカメ）
- 2 対象作物 水稲
- 3 発生地域 府内全域（特に大阪南部）
- 4 発生量 並～やや多い
- 5 発生時期 8月～9月
- 6 発生の状況



図1 アカスジカスミカメ



図2 アカヒゲホソミドリカスミカメ

- (1) 府内3カ所に設置した予察灯のうち、南河内地域（羽曳野市）に設置した予察灯の斑点米カメムシ類の誘殺頭数が、種類によって平年よりかなり多かった（表1、表2）。多かった種は体長5～6mm程度の小型種であるアカスジカスミカメ（図1）、アカヒゲホソミドリカスミカメ（図2）である。
- (2) 府内水田畦畔周辺での捕虫網によるすくい取り調査でも、中部・南部でアカスジカスミカメ、アカヒゲホソミドリカスミカメが確認された（表3）。
- (3) 大阪管区気象台発表の1か月予報（8月4日付）によると、8月の気温は高く、降水量は少ないと予想されており、カメムシ類の増殖に適した条件となっている。

表1 予察灯の誘殺頭数（アカスジカスミカメ）

予察灯 設置場所	6月 第4半旬	6月 第5半旬	6月 第6半旬	7月 第1半旬	7月 第2半旬	7月 第3半旬	7月 第4半旬
	(16～20日)	(21～25日)	(26～30日)	(1～5日)	(6～10日)	(11～15日)	(16～20日)
<b>枚方市</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>1</b>	<b>0</b>
平年値	2.4	0.9	1.7	0.5	1.2	0.6	2.0
<b>岸和田市</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>
平年値	0.3	0.5	0.1	0.0	0.2	0.2	0.1
<b>羽曳野市</b>	<b>29</b>	<b>28</b>	<b>41</b>	<b>37</b>	<b>85</b>	<b>51</b>	<b>24</b>
平年値	14.0	14.3	22.2	17.3	18.6	26.5	24.1

表2 予察灯の誘殺頭数（アカヒゲホソミドリカスミカメ）

予察灯 設置場所	6月 第4半旬	6月 第5半旬	6月 第6半旬	7月 第1半旬	7月 第2半旬	7月 第3半旬	7月 第4半旬
	(16～20日)	(21～25日)	(26～30日)	(1～5日)	(6～10日)	(11～15日)	(16～20日)
<b>枚方市</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>12</b>
平年値	1.3	0.4	1.5	1.4	2.1	2.9	6.0
<b>岸和田市</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>
平年値	0.6	0.2	0.3	0.4	0.9	0.7	0.3
<b>羽曳野市</b>	<b>18</b>	<b>23</b>	<b>86</b>	<b>123</b>	<b>69</b>	<b>28</b>	<b>34</b>
平年値	5.5	4.5	8.2	12.6	13.1	11.2	10.6

※「アカヒゲホソミドリカスミカメ」は別名「イネホソミドリカスミカメ」とも呼ばれる。

表3 水田畦畔における捕虫網すくい取り調査捕獲数

地域	調査地点	調査月日	アカスジカスミ カメ	アカヒゲホソミ ドリカスミカメ
北部	茨木市	8月2日	0.0	0.0
北部	能勢町	8月2日	0.0	0.0
北部	豊能町	8月2日	0.0	0.0
中部	八尾市	7月25日	1.5	9.0
中部	枚方市	7月28日	1.5	1.0
南部	羽曳野市	7月27日	2.0	4.0
南部	富田林市	8月4日	4.0	11.0

(捕虫網 20 振りあたり頭数)

## 7 斑点米カメムシ類防除の注意事項

### (1) 耕種的防除

斑点米カメムシ類は、水稻が出穂するまでは畦畔やその周辺の休耕田等の雑草地のイネ科雑草の種子を吸汁して繁殖している。水稻が出穂すると水田内に移動し、乳熟期の籾を吸汁加害し、斑点米の原因となる。出穂までは水田内にはいないので、斑点米カメムシ類の生息密度を下げるためには、出穂前の畦畔の除草が重要である。

出穂の10日前までに畦畔の除草を済ませるようにする。出穂が迫ってから行くと、斑点米カメムシ類を水田に追い込むこととなり、逆効果となる。

### (2) 農薬による防除

畦畔雑草を観察し、小型種の斑点米カメムシ類が多い場合は、薬剤(表4)による防除を穂揃期(出穂すべき穂のうち8~9割が出穂している時期)に行う。発生が多い時は、その7~10日後の乳熟初期にも散布すると良い。

大型種のクモヘリカメムシやホソヘリカメムシが多い場合は、3~7日遅めの乳熟初期とその7~10日後にずらして散布すると効果的である。

(種類の判別には当グループホームページの病害虫防除指針巻頭カラーページに各斑点米カメムシ類の写真を掲載しているので参考にしてください)

なお、農薬によっては散布適期が異なることがあるので、ラベルやメーカーホームページなどの資料をよく確認してから使用すること。

表4 斑点米カメムシ類防除薬剤(例)

(令和4年7月現在)

剤型	農薬名	使用時期	成分数	有効成分(IRACコード)
粒剤	スタークル(アルバリン)粒剤	収穫7日前まで	1	ジノテフラン(4A)
	スタークル豆つぶ	収穫7日前まで	1	ジノテフラン(4A)
	キラップ粒剤※	収穫14日前まで	1	エチプロール(2B)
	ダントツ粒剤	収穫7日前まで	1	クロチアニジン(4A)
粉剤	スタークル(アルバリン)粉剤DL	収穫7日前まで	1	ジノテフラン(4A)
	トレボン粉剤DL	収穫7日前まで	1	エトフェンプロックス(3A)
乳剤・フロアブル剤等	スタークル(アルバリン)顆粒水溶剤	収穫7日前まで	1	ジノテフラン(4A)
	トレボン乳剤	収穫14日前まで	1	エトフェンプロックス(3A)
	スミチオン乳剤	収穫21日前まで	1	MEP(1B)
	エクシードフロアブル	収穫7日前まで	1	スルホキサフロル(4C)

※キラップ粒剤の斑点米カメムシ類に対する散布適期は出穂10日前~出穂期であるので遅れないように注意する。

### ◆病害虫防除グループホームページにて

「令和4年版大阪府病害虫防除指針」を公開しています。併せてご参照ください。

<http://www.jpnpn.ne.jp/osaka/>



### ●農薬の使用に当たっては「農林水産省農薬登録情報提供システム」

(<https://pesticide.maff.go.jp/>)で登録内容を確認してください。

6月から8月は農薬危害防止運動月間です。農薬の安全かつ適正な使用を徹底し、農薬の使用に伴う事故・被害を防止しましょう。